

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アイリー児童発達支援・放課後等デイサービス【重症心身障害・医療的ケア】		
○保護者評価実施期間	2025年1月10日		2025年2月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2025年1月10日		2025年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1日定員5人の少人数制でアットホームな雰囲気のなか、スタッフとの距離も近くひとりひとりに丁寧に時間をかけて療育を実施できている。	同じ集団活動も利用児の発達状況や特性に応じてねらいを明確に、保育所等の移行を想定した生活リズムの確立等を目指した支援を提供している。プログラムは集団活動と個別の機能訓練を組み合わせて行うとともに、個々の障害や医療的ケア、生活リズムなどに配慮し利用時間設定なども保護者と相談のうえ臨機応変に対応している。日々の活動の様子について、写真・動画も交えて保護者とコミュニケーションを図っている。	児童発達支援センターとの連携によるスーパーバイズや、他事業所での様子について理解するなど、他機関との連携をより深めていく。
2	併設する訪問看護ステーションとも随時連携を図り、様々な切れ目ないケアと療育を行うことができる。	自社の訪問看護ステーションと密に連携を図りながら、児童発達支援・放課後等デイサービス利用前の利用児の体調やケア・処置の内容、ご家族の心配ごと等について申し送りを受けるなど法人全体で支援ができるよう努めている。医療的ケアや処置など看護職員が複数で対応し、訪問看護からの応援体制の整えている。	今後、他の訪問看護ステーションとの連携や見学などを積極的に行うことで、療育活動の中でより安全・安心に様々な医療的ケアに対応できる環境を整備していく。
3	こどもの日常生活、家族を支える観点から希望者には入浴支援を実施している。	自宅での入浴方法も参考に、個々の発達発達状況、姿勢、医療機器の使用状況等に応じた入浴方法を検討している。また入浴前後には吸引、洗腸、導尿、消毒・軟膏処置、全身の皮膚状態の観察など医療・健康面にも十分留意しながら実施している。	利用児の成長にあわせて入浴支援が対応できるよう、浴室や住宅環境の整備・改築を進めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会や家族を招いてのイベントが少ない。	開設初年度で利用者の数が少なかったことで、十分な保護者同士の交流の機会を作れなかったと考える。	今後保護者の意向やニーズにも確認しながら、来年度計画案に茶話会などを取り入れていく。
2	放課後児童クラブや児童館、保育所等との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がとれていない。	開設当初、十分な年間活動計画の立案や準備に十分な時間をかけることができず、加えて近隣の園の事情(建替え)等があり実現できなかった。	長期休暇中など長時間利用ができる時期に、近隣の保育所・放課後児童クラブと交流できるよう働きかけていく。
3			